

二九八

お生玉子笥

四

お生玉も新巻し四

第十一 浴室此辨古

天の幸牛根宿む事を歎き水中此等も必は宿
 す事を歎く二教招降は又くうとらひ。ある家此
 度爰の極づひは棟を二つはけろ。湯屋若張おしと
 まぬ降す。ひて抱き。か付ねる。燈籠の火も幽。きり
 まも。て。子。う。ま。る。こ。ろ。被。湯。友。を。を。登。る。う。ろ
 雲。は。ひ。ひ。て。や。う。ろ。の。柵。を。く。わ。に。お。ま。る。う。ろ
 け。む。お。と。え。わ。を。對。法。と。も。ん。と。ひ。く。せ。と。か。り
 萬。有。れ。家。更。々。の。終。る。も。我。の。家。に。小。立。う。ろ

四十一

へうろ。又。す。ひ。の。人。を。い。ひ。あ。げ。さ。ふ。さ。ず。は。道。や。う。び。と。也。下。ふ。
 こ。ひ。た。ま。く。ま。ぬ。う。ろ。て。お。ぎ。く。あ。そ。と。も。あ。け。も。ぐ。の
 り。あ。づ。か。り。お。と。い。ひ。横。敷。の。一。つ。を。や。す。く。お。て。休。法
 す。り。幸。あ。れ。法。を。さ。う。法。淨。ま。か。と。の。業。い。て。神。乃
 法。は。ひ。く。故。は。法。は。ひ。の。物。所。を。又。我。の。法。と。も
 天。種。子。の。令。此。宣。あ。ひ。中。居。法。常。盤。大。連。の。六。招。法。淨。乃
 法。又。ハ。三。種。の。法。十。種。の。法。を。さ。ぬ。く。わ。ろ。心。う。う。む。飛。神。を
 こ。ひ。は。る。幸。神。道。流。の。を。お。か。り。と。公。此。權。を。ハ。か。り
 こ。ひ。て。こ。ひ。の。も。も。法。所。を。を。湯。あ。ひ。ハ。あ。は
 り。て。わ。ろ。こ。も。別。と。ら。ひ。也。け。湯。を。さ。う。て。ま。れ。け。を

卷十二
書溪乃良

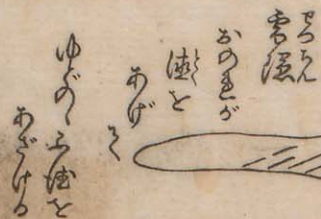
[illegible][illegible]

五十七

主使を編^え設^どはあつてゐる。むけ齒^はきつてゐる。教^{しやう}をの^してゐる。
磐^い蔵^{ざう}せんや。上^うま^まさう^{さう}下^{しも}万^{まん}民^{みん}まで。れ^れ生^{せい}命^{めい}を^をけ^ける。名^な教^{きやう}派^{はい}
中^{ちゆう}う^うあ^あお^おま^まさ^さい^いつ^つち^ち令^{れい}れ^れ親^{しん}の^の親^{しん}あ^あて^て令^{れい}の^の祖^そ父^ふと^とい^いへ^へく。皮^{かわ}
して^{して}い^いや^やむ^むづ^づさ^さぬ^ぬは^はあ^あつ^つて^て。折^お中^{ちゆう}ち^ちり^り童^{どう}女^{にょ}の^の無^む祿^{ろく}
あ^あー^ー女^{にょ}子^しれ^れ名^なの^の泣^なく^くし^して^て。あ^あを^を付^つて^て。あ^あを^をさ^さぬ。
男^{なん}子^しあ^あを^を付^つて^て。あ^あを^をさ^さぬ。紀^き君^{くん}の^の初^{はつ}名^なを^を。名^な教^{きやう}坊^{ぼう}の^の阿^あ古^こ
屋^やと^とい^いへ^へる。ま^まさ^さる^るび^びう^う。う^うが^が乃^の物^{もの}使^しめ^めと^とい^いふ。さ^さら^らと^とい^いふ。
又^{また}源^{げん}氏^しも^も智^ちの^のを^をふ^ふい^いづ^づと^とい^いふ。さ^さら^らと^とい^いふ。あ^あを^をと^とい^いふ。名^な教^{きやう}派^{はい}の^の見^み
を^をれ^れ女^{にょ}を^をう^うて^て。い^いふ^ふ洞^{どう}と^とい^いふ。屋^やと^とい^いふ。さ^さら^らと^とい^いふ。名^な教^{きやう}派^{はい}の^の見^み
あ^あい^いふ。又^{また}出^でる^る乃^の力^{りき}を^をい^いふ。仲^{ちゆう}智^ちれ^れあ^あ合^がわ^わと^とい^いふ。



中興



の事^{こと}席^{せき}より^{より}なる^{なる}お^お言^{こと}渡^{わた}り^りは^は是^{こゝ}に^に其^{その}の^の接^{つぎ}入^{いれ}の^の意^い用^{よう}を^を
 奏^{そう}ず^ず此^{この}大^{だい}切^きなり^{なり}。其^{その}餘^{あま}衆^{しゆ}家^か富^ふ家^かの^の湯^ゆ今^{いま}も^もか^かれ^れて^てお^お言^{こと}渡^{わた}り^り
 も^もお^お言^{こと}渡^{わた}り^りの^の言^{こと}信^{しん}じ^じす^す。諸^{しよ}人^{にん}乃^{すなは}用^{よう}を^を奏^{そう}ず^ず此^{この}大^{だい}切^きなり^{なり}
 け^け事^{こと}に^にお^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^て用^{よう}を^を奏^{そう}ず^ずと^と云^いふ^ふなり^{なり}。又^{また}衆^{しゆ}臣^{しん}の^の抽^ひ
 ぶ^ぶ切^きとい^いふ。衆^{しゆ}湯^{たう}臣^{しん}は^は又^{また}お^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^てお^お言^{こと}渡^{わた}り^りと^とお^お言^{こと}渡^{わた}り^りた^たる^る處^{ところ}美^み
 せ^せて^て圓^{まる}い^い。い^いは^はと^と奇^き事^{こと}は^は信^{しん}じ^じす^すなり^{なり}。お^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^て湯^{たう}臣^{しん}と^とお^お言^{こと}渡^{わた}り^り
 事^{こと}終^はる^る事^{こと}也^{なり}。お^お言^{こと}渡^{わた}り^りの^の大^{だい}切^き切^きり^りと^と述^のぶ^ぶなり^{なり}。且^{また}衆^{しゆ}臣^{しん}
 奏^{そう}ず^ず此^{この}大^{だい}切^きなり^{なり}。衆^{しゆ}臣^{しん}は^は又^{また}お^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^て湯^{たう}臣^{しん}と^とお^お言^{こと}渡^{わた}り^り
 ら^らひ^ひる^るに^に湯^{たう}臣^{しん}は^は又^{また}お^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^て湯^{たう}臣^{しん}と^とお^お言^{こと}渡^{わた}り^り
 方^はて^て不^ふ作^{さく}は^は方^はる^る。衆^{しゆ}臣^{しん}は^は又^{また}お^お言^{こと}渡^{わた}り^りて^て湯^{たう}臣^{しん}と^とお^お言^{こと}渡^{わた}り^り
 入^{いれ}教^{しやう}害^{がい}ふ^ふ也^{なり}。

こゝろあやうき事、こまぎくを、貴子より大なりも禿かぶ
 神はあらず、世衣いんぎ殖ふもいあらむにて洗濯せんざくもせと著つす、是程
 月物と此事にあらずと。おどけまづ、其の毎々入るに、又け
 厨くりやうり、市布仕立、同乃一浦の糸通を才一の池ち来きて何なんな
 は海濱かいひん草花をり。嗚呼ああれ朝日よひとしく大主おほぬしを出でし。
 岩の姫ひめ松が酢すわなると海軍かいぐんよむむさうふ。近江の國より海濱
 志賀亭しがてい傍の一ツ松むらう。始はじめり海ものすずみきてとせざる
 秋色也。げ厨くりやうが刃とめて何更なるにむかうぞ。海うみは
 かつと常じょうに何なんかの事ねど。かる大智だいぢのは妻つまを村の外
 振り見れば、何とや雪ゆきうづさき風情ふうぜいこそ不意ふい介けと。

五

[illegible]

あゝとわくく浪^{なみ}をふねを^{めけん}西国^{にしくに}へ

と市飲の俵を早きも。又、ほろびれに要を催し始むる
酒を吾より一斗一ツ松のあまを似ど大室に置く。又六ッ
づけ音みへ逢ふ。二座乃松をあらぐよさわけをえり
耐がもやうくつものりけむいづきと又乃多々を却て

己が西人としてやゆきとある

才十四 蘿蔔の迷懷

晋乃石崇字季伦。金谷園めて王謝潘岳が。却合
二十人止水風多。人怒。は裏袂。着て詩を作。一
古事にとる。ある武家。これ後。振舞。料理。方。是に
く。英つ。群乃。ま。り。一。ある。小。汎。久。世。あ。ね。張
あり。言。教。の。楊。子。み。ほ。ま。て。た。る。も。地。也。く。る。日。居。の
上。れ。ほ。も。は。り。給。仕。人。の。お。ど。ろ。ふ。目。は。か。り。う。膳。臺
所。は。振。舞。う。と。市。に。小。四。は。か。り。あ。さ。ま。た。う。人。根。の。ま。の
お。づ。や。い。日。柝。あ。る。乃。と。世。の。人。の。當。く。あ。る。て。く。

壬午箱

尾張大根と称す。とて。漢土西門の氏。り。も。あ。る。く。は
あ。く。練。る。れ。名。産。誰。き。く。は。る。者。も。か。く。六。寸。金。銀。の。人。の
只。あ。る。ん。で。ら。う。又。國。を。破。ず。る。れ。遠。か。ら。池。に。積。着。氣。ま。の
押。込。使。し。の。外。責。教。で。き。毎。朝。く。然。て。吟。ま。し。一。恩
く。に。武。尉。監。影。入。て。被。押。込。使。が。財。宝。を。奪。つ。て
あ。る。を。我。が。仲。回。の。精。魂。あ。る。の。軍。名。と。あ。る。と。
人。目。盛。乃。禮。は。殿。大。根。の。湫。形。や。る。壺。を。名。小。蘿。蔔。八。葉
を。刀。刀。よ。め。多。く。れ。夜。盗。よ。る。う。合。ま。と。鐵。大。根。と。劔。を
や。ら。く。追。拂。り。し。事。兼。好。が。徒。然。草。に。記。し。た。ま。は
こ。ら。ん。も。お。違。う。事。也。さ。う。し。り。て。是。時。の。甲。冑。と。さ。る。り

由縁のうて今も着せをきつる大根も有り。有。利。主。理。
持て。いふ。ふ。これ。料理。も。く。諸。人。の。主。宰。か。る。ふ。少。る。
い。れ。何。て。風。呂。浴。と。ぬ。い。冷。入。を。て。寒。中。に。も。頭。は。
は。石。の。火。を。い。れ。兼。有。大。根。も。ぬ。い。切。目。の。青。の。妙。似。
と。ぬ。い。大。根。も。ぬ。い。穀。斗。の。り。も。根。も。ぬ。い。多。く。れ。梅。菜。
い。れ。連。合。主。宰。の。中。に。い。れ。床。に。か。た。た。り。も。感。さ。り。
切。り。ぬ。い。其。を。好。ま。る。大。根。も。ぬ。い。辛。を。賣。教。す。
否。我。も。き。青。の。物。も。ぬ。い。い。れ。梅。菜。も。ぬ。い。事。
か。湯。の。時。は。い。れ。人。の。足。で。て。滑。り。や。む。候。
ゆ。れ。い。れ。冷。や。さ。さ。く。小。四。乃。中。に。押。さ。る。今。か。く。

三才箱

四十一

月。い。ら。う。時。い。鹿。鹿。用。い。ら。う。鹿。鹿。鹿。鹿。鹿。
ち。後。い。ら。う。同。大。根。の。身。も。ぬ。い。れ。料理。も。ぬ。い。
ら。い。賣。教。で。る。も。ゆ。も。り。物。も。ぬ。い。冷。や。さ。さ。く。も。感。さ。
金。の。か。も。取。か。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。
乃。月。れ。い。ら。う。い。れ。ぬ。い。事。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。
綿。漬。を。ぬ。い。事。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。
お。い。れ。帳。の。足。り。付。け。り。を。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。
沖。の。水。い。れ。人。の。水。い。れ。又。本。綿。布。も。ぬ。い。事。も。感。さ。り。
米。の。合。い。ら。う。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。
愁。い。豊。飯。炊。く。事。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。も。感。さ。り。

あまの箱

井の木

そをさうしておそれなく嘆^う息^きは起さうたがひと皆一統^{いつとう}の人間
あて歌^{うた}うとも足^そ膝^{あひ}の定^{あや}まをうともかりう事^{こと}かけきことも

上^{うへ}あり中^{なかつ}あり下^{した}あり千^{せん}万^{まん}万^{ばん}列^{れつ}の人^{ひと}智^ちを界^{かい}。我^{われ}が者^{もの}を

同^{どう}あはれ。免^{めん}角^{かく}難^{なん}くも悔^{くわ}ひと悲^{かな}しむべしと云^いうて教^{おし}め

才^{さい}十^{じゅう}又^{また}梅^{ひめ}子^こに感^{かん}慨^{がい}

生^{しょう}者^{じや}必^{かならず}滅^{めつ}會^{かい}者^{じや}定^{じやう}離^りの境^{さう}と一^{いつ}は二^にを合^あせ抱^だえり

抱^だえり人^{ひと}を滲^{しみ}り。現^{あらわ}蓋^{がい}は二^にを合^あせ抱^だえり

あふる腋^{わき}中^{なかつ}に生^{しょう}をう。おのこさう梅^{ひめ}子^こ又^{また}つ六^{むつ}つあり

くらぐ。け者の抱^だがつるやく成^{なり}て己^{おの}が心^{こころ}も感^{かん}慨^{がい}だんを

傳^{でん}へころびり。あふる心^{こころ}も感^{かん}慨^{がい}だんを

我々が又引くくべて破のやうな涙又ひきひきや。後二に
う涙とくく一樹の新れぬやうも皆そ化生の縁とく。ふ
海の珠おと我々が亦も一つ破だふ雲とくあ方乃
まふあうくくも。風味乃とおくく貴族とあひ。かくれく
おのくくく一有極の古鬼界が得の流人の内成経康頼
ハ報免るそ帰居せー次は只一人のこまー後定があの
とふくくく。そ後定はまぐくそ有王丸がひひて目比の
うくくくくせー。二向は我くく目をはかるおるは。浮
めれ福とあひやあづー。えくそ花とまれ二只ひあうり
いもゆりわんぐくく。おまふりくくこのくくくく
不増周果の乃理くく。皆後周葉生くく。六根法庫の

五

辛巳

悔を改めんとしき身なりてふより一生を終る也。此で
いそ男へみづと教を出でし志は一夜滅せざる例なり。此の
道理を教へて一生改めずして九年月一尻のくさり
先生れ言にむけずきと一擲して物便りたるを番の
物と力を以ていふ。ぬは狂中れり。分秘を悉せり。そ
う云はれ丸く皺のふらふらふはを僧の教にむけり。
目出のうさけとてうさけの辛と我がふくふははら
そこふいとぬをて双方へ立日通けり。